

『十字架という選択肢』

'22/04/10(受難週)

聖書箇所:ルカの福音書 22 章 1-23 節(新約 p.162-)

来週は、1年に1度、イエス様の復活を覚えるイースター…、つまり、「復活祭」になります。そこで、今日は、「イエス様の受難」ということを覚えつつ、皆さんと一緒に、礼拝を捧げていきたいと思ひます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ルカ 22 章をお開きください。

命題:「最後の晩餐」の時、どのような思惑が交錯していたでしょう?

今日は、ルカ 22:1-23 のみことばから、イエス様が十字架にかかられた前夜、そこに、どのような「思惑」が交錯していたか?ということを見ていきたいと思ひます。今日、私たちが見ていく3種類の者たちは皆、それぞれが「十字架」という選択肢を選びました…。でも、彼らを選んだ選択肢は、彼らにどういった結果をもたらしたでしょう?今日は、そういったことを学んでいくことによって、願わくは、「神様のみこころ」というものが如何に偉大で…、私たちの理解を超越した素晴らしいものであるのか?ということ、今一度、皆さんと確認していきたいと思ひます。

I・祭司長たちの「殺意」!(1-6 節)

まず、私たちが今日、1番最初に注目していきたい思惑というものは、時の祭司長たちの「殺意」であります。非常に残念なことですが、イエス様の時代の祭司長たちは、神に仕え…、民衆たちに神のみことばを教えるような立場にありながら…、その心の中では、殺人という、実に恐ろしい計画を立てておりました。しかも彼らは、それを執念深い思いで計画し…、それをどうとう実行に移してしまったのです。まずは、そういったことを確認していきたいと思ひますので、今日のみことばの内、ルカ 22:1-6 までを読ませていただきます。

- さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。
- 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というのは、彼らは民衆を恐れていたからである。
- さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。
- ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。
- 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。
- ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。

●過越の祭り(≒種なしパンの祝い)の起源

この時、イスラエルでは、『過越の祭り』が近づいておりました。『過越の祭り』とは、簡単に言ってしまうと、イスラエルにとって1番重要な祭りである!と言ってしまっても良いでしょう。その起源は、このイエス様の時代から、さらに、1400年以上も昔にさかのぼります(出エジプト=BC1445)。どうぞ、皆さん。もしできましたら、出エジプト記 12 章のみことばをご覧ください。ここに、『過越の祭り』の起源や、その意義について記されてあります。

まずは、**出エジプト記 12:1-3**をご覧ください。こうあります。『1【主】は、エジプトの国でモーセとアロンに仰せられた。2「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。3イスラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すなわち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。』と続いています…。

⇒まず、最初に分かりますことは、この祭りの起源は神様にある!ということです。つまり、すべてを造られた真の神様が、その昔、モーセとアロンを通して、イスラエルの全会衆に対して、この祭りを守るよう教えられたのです。しかも、それだけではありません!今読んだ 2 節に、『この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ!』とありますように、この時から、イスラエルの暦が新しくされて、この「ニサンの月」(現代では、3-4 月頃)が1年の始まりとなりました(当時は、「アビブの月」)。つまり、それほどまでに、この祭りは重要なイベントであったのです。

皆さんもご存知だと思います。その昔、イスラエルの民たちは、400 年もの間、エジプトで、奴隷として、苦しめられておりました。しかし、真の神様は、そのイスラエルを導いて、そのエジプトから脱出させてくださいました。その時、神は、10 種類もの災いを用いられました。それらは、①ナイル川の水が血に変わる。②かえるの大発生。③ぶよの大発生。④あぶの大発生。⑤家畜の疫病。⑥うみの出る腫物。⑦ひょう。⑧いなごの大発生。⑨暗やみ、といったものであります。そして、最後、10 番目の災いとして、神が下されたものが、「初子の死」であります。この日の夜、神であられる主は、王族から奴隷に至るまで…、そしてまた、家畜までも同様に、すべての初子(=長男)を殺されたのです。そして、このことがあって、ようやく、イスラエルの民たちはエジプトから脱出できたわけです。

しかし、この時、神は、イスラエルの民に対しては、こんな方法を用いて、この 10 番目の災いから守っていただきました。それが、「過越の小羊」であります。この 10 番目の災いから逃れるために、イスラエルの民たちは、1匹の小羊を用意しました。そして、その小羊たちをほふって、その血を、自分たちの家の門柱やかもいに塗っておくのです。すると、神の災いが、その家を過ぎ越して、その家の者は助かる!というわけです。この時、イスラエルの者たちは、パン種の無いパンを焼いて、エジプトから出ていきました。…と言うのは、パンを発酵させるだけの時間さえも無かったからです。また、このパン種と言うのは、罪の象徴でもあります。そういったこともあって、この祭りは、『種なしパンの祝い…』とも呼ばれています。

でも、神様は、この祭りを通して、一体、何をイスラエルの民たちに対して伝えたかったのでしょうか?どうぞ、皆さん、**出エジプト記 12:24-27** に記されてある、モーセの言葉に注目してください。『24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のためのおきてとして、永遠に守りなさい。25 また、【主】が約束どおりに与えてくださる地に入るとき、あなたがたはこの儀式を守りなさい。26 あなたがたの子どもたちが『この儀式はどのような意味ですか?』と言ったとき、27 あなたがたはこう答えなさい。『それは【主】への過越のいけにえだ。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、私たちの家々を救ってくださったのだ。』すると民はひざまずいて、礼拝した。』

⇒皆さん、分かってくださいました?神は、この過越の祭りを通して、イスラエルの民たちに、「真の神なる御方が自分たちのことを守ってくださいました!」ということを教え…、また、真の神を礼拝させるために、この祭りを定められたのです。実に、そのために…、つまり、真の神様への礼拝を捧げるために、この時、エルサレムの町には、300 万人とも言われるユダヤ人たちが集まりつつあったわけなのです。

●祭司長たちのもくろみ

さて、どうぞ、もう1度、今日のみことばであるルカ 22 章に戻っていただきます?その 2 節をご覧ください。すると…、この時、『過越の祭り』を控えて…、祭司長と律法学者たちは、一体、何をしていました?⇒何と、彼らは、『イエスを殺すための良い方法を捜していた…』のです!いいえ、祭司長たちだけではありません。何と、イエス様の弟子であったはずの『イスカリオテ』もまた、1年に1度、あのエジプトからユダヤ人たちを救い出してくださいましたことを記念して、真の神様への礼拝を捧げるべき大事な時に…、その神様が遣わしてくださいました救い主である、イエス様のことを裏切ろうとしていたのです。それも、わずかばかりのお金のために!です。

このみことばの内、特に興味深い表現で…、3 節、イスカリオテに、『サタンが入った…』というような文言があります。果たして、この時のイスカリオテの判断に、サタン(=悪魔)の直接的な関与があったのかどうか？ということについては、定かではありません。ひょっとしたら、この時のイスカリオテの下した選択が、あまりにも非人間的であったということから、こういった表現がなされているだけなのかも知れません。しかし、いずれにしても明らかなことは、そこには、間違いなく、イスカリオテの判断…、あるいは、彼の自由意志による選択があった！ということなのです。

…と言いますのは、例えば、ヤコブ 1:13-14 のみことばには、こういったことが教えられてあるからです。『13 だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と断言はできません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。』⇒確かに、このみことばが教えてくれています通り、私たちが人間のことを誘惑してやろう！というような存在が居ないわけではありません。しかし、だからと言って、私たちは、自分たちのことを誘惑した存在に、すべての責任を押し付けることはできません！…と言うのは、そこには、間違いなく、その誘惑に引かれてしまった、私たちの側の『欲』と言うか…、私たちの側の「選択」というものを完全に否定することはできないからです。そうじゃありません？

例えば、その昔、創世記 3 章に記されてある通り、エバはサタンに誘惑されて…、まんまと神様の命令に背いて、「善悪の知識の木の実」を食べてしまいました…。でも、その時、神は、エバに対して、「サタンに誘惑されたから、あなたは何も悪くない！」とおっしゃいました？…そうじゃなかったですよ？確かに、神はサタンの罪を認め、サタンを裁かれました。しかし、神は、アダムとエバにも罪があったことを指摘されて、それゆえに、彼らはエデンの園から追い出されたわけでしょう？

そういうことから分かりますことは…、確かに、この時、イスカリオテに、サタンによる誘惑というものがあったのかも知れません！でも、だからと言って、神は、すべての責任をサタンだけに負わせられない！のです。…と言うのは、その中に、幾らかでも、イスカリオテの選択があり…、同時に、ある程度の判断というものが、イスカリオテにあったからです。…このように、神は、すべてのことを御存知であり、すべてのものを正しく…、そして、厳しく裁かれる御方なのです。

II・イエス様の十字架という、神の御計画！（7-20 節）

さて、その次に私たちが見ていきたいことは、今日のみことばの内、7-20 節の部分です。このみことばは、様々な人間たちの陰謀と言うか…、様々な思惑がうずまく中で…、イエス様が、どのようなことをなさろうとしておられたか？ということをお教えしてくれています。何と、このような時に、イエス様はご自分が十字架にかかるといふ、神の「御計画」を遂行しよう！と決まっていたのです。今度は、そのことを確認していくために、まずは、ルカ 22:7-20 をご覧ください。そこには、こうあります。

7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。

8 イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」

9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」

10 イエスは言われた。「町に入ると、水がめを運んでいる男に会うから、その人が入る家にまでついて行きなさい。」

11 そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言うておられる』と言いなさい。

12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」

13 彼らが出かけて見ると、イエスの言われたとおりであった。それで、彼らは過越の食事を準備をした。

14 さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。

15 イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をすることをどんなに望んでいたことか。

16 あなたがたに言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」

17 そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。

18 あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

19 それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」

20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」

●計画通りに行動されたイエス様

さて、いよいよ過越の日がやって来ました。時は木曜日、イエス様が十字架にかかれる、その前日でありました。そこで、イエス様は、12 弟子たちの中からペテロとヨハネを遣わして、『過越の食事』のための用意をするように言われます。その時、イエス様は、10 節で、『水がめを運んでいる男に会うから、その人が入る家にまでついて行きなさい。』ということをおっしゃいます。…実は、この当時、水を用意したり…、水がめを運んだりするのは、普通、女性の役目でしたから、男性が水がめを運んでいる、ということは珍しくて、それが目印になったのだらうと思われまふ。そして、イエス様は、『…その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言うておられる』と言いなさい。』ということをおっしゃいます。すると、その主人は、2階の大広間を見せてくれて…、そこが最後の晩餐の舞台となるわけなのです。

ちょうど、これと似たようなことが、ルカ 19 章にも記されてあるのですが、皆さんは覚えてくださっていますでしょうか？この時、イエス様は、エルサレムの町に入城されるにあたって、ろばの子を使おうとされたことがありましたが、その時も、まるで、イエス様は、先のことを言い当てる予言者のような感じでありました。しかし、そういったことは、特段、驚くには値しません。…と言うのも、イエス様は、神が遣わされた救い主であって…、すべてのことをご存知であったからです！

さて、ここで私たちが1番に注目したいことは、イエス様が 12 弟子たちに教えられた内容です。果たして、イエス様は、最後の晩餐の時、弟子たちにどういったことを語られたのでしょうか？どうぞ、15 節以降をご覧ください。15 節、『わたしは、苦しみを受ける前に…』とか、16 節の、『わたしはもはや二度と過越の食事をすることはできません…』とか、18 節、『今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません…』というようなことをおっしゃっておられるのです。こういったみことばから明らかなのは、イエス様は、もう間もなく、自分が十字架にかけられて、殺される運命にある…ということをおっしゃって、すべてをご存知であったわけなのです！

しかし、そういったことは…、何も、この部分で初めて、イエス様が語ってくださったことではありませんでした。そうでしたよね？どうぞ、皆さん、もしできましたら、ルカ 18:31-34 をご覧ください。『31 さてイエスは、十二弟子をそばに呼んで、彼らに話された。「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子について預言者たちが書いておられるすべてのことが実現されるのです。32 人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」34 しかし弟子たちには、これらのことが何一つわからなかった。彼らには、このことばは隠されていて、話された事が理解できなかった。』

⇒皆さん、気付いてくださいます？ここで、イエス様は、ご自分が異邦人たちに引き渡され、辱められてから殺される！ということをご存知でした。…にも関わらず、イエス様は、これからエルサレムへ向かうとされていたのです。…と言いますのも、このイエス様が十字架にかけられるということは、神様の最善なる御計画の内に、はるか以前から決められてあったことだからです。

●私たち人間の勝手な期待と、神様がなしてくださった最善なる救いの御業

もう1ヵ所、今度は、さらに以前の、ルカ 9:20-22 をご覧ください。『20 イエスは、彼らに言われた。『では、あなたがたは、わたしをだれと言いますか。』ペテロが答えて言った。『神のキリストです。』 21 するとイエスは、このことをだれにも話さないようにと、彼らを戒めて命じられた。 22 そして言われた。『人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえらねばならないのです。』⇒ここでも、イエス様は同じことを話してくださっています。しかし、この時点では、イエス様は、『このことをだれにも話さないようにと…』と言って、弟子たちのことを戒められました。一体、どうしてでしょう？

実は、この当時、多くのユダヤ人たちが、救い主に関して「間違っただイメージ」を持っていました。…と言うのも、多くのユダヤ人たちは、神が遣わしてくださる約束の救い主のことを、まるで、ダビデ王の再来であるかのように理解していたからでした。かつて、ダビデがそうであったように…、神は、約束の救い主を用いて、このユダヤをローマ帝国から解放し、近隣の国々に対しても勝利させてくださる！そのように、当時の民衆たちは、約束の救い主のことを、まるで、政治的なヒーローか…、あるいは、民族の解放者か何かのように思い違いをしていたのです。しかし、実際は違いました。

…と言うのも、彼らに1番必要であったのは、ローマの支配から一時的に解放させてくれるような政治的解放者ではなく…、私たち人類のすべてを、罪の支配とその裁きから永遠に救い出してくれるような、「本物の救い主」であったからです。神は、そのような救い主として、イエス様を与えてくださったのです！

ですから、どうぞ、今日のみことばの 19-20 節をご覧くださいますと、そこでイエス様は、パンやぶどう酒の杯を指して…、『これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。』とか、『この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。』とおっしゃっておられます。もちろん、イエス様が、ここでパンを指して、「わたしの体です！」とおっしゃられたのは、あくまでも、例えであること明白です…。特に、カトリックの人たちは、聖餐式の時のパンや杯を、非常に重要視する傾向にありますが、大切なのは、パンやぶどう酒そのものではなく…、私たちが、イエス様の犠牲を覚えることです！そうですね？

ここでイエス様は、パンとぶどう酒の杯を指して…、19 節でも 20 節でも、同じ言葉を使って説明をしてくださっています。⇒それは、『あなたがたのため…』という言葉です。イエス様が犠牲にしてくださったからでも…、また、イエス様が流してくださった血も、それらは私たちのためであったのです。…と言うのも、イエス様の犠牲なしに、私たちの罪が赦される方法が無かったからです。イエス・キリストという、神様の用意してくださった救い主が居なければ、私たち人間に、私たちが犯した罪の赦される道はありませんでした。だから、神は、救い主を、この世に送ってくださったのです！

皆さん、覚えてくださっています？パテスマのヨハネは、イエス様を見た時、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』(ヨハネ 1:29)と言って…、イエス様こそ、神が私たちのために備えてくださった、本物の小羊であるということを証してくれました。それは、確かに、大勢の民衆たちの期待通りでは無かったのかも知れませんが…。でも、イエス様こそが、私たち人間にとって1番必要であった最高の救い主であられたのです！どうぞ、未だ、このイエス様のことを信じ救われていない方は、願わくは、1日も早く、このイエス様のことを信じて救われてほしいと思います。

Ⅲ・イスカリオテのユダが下した「選択」！(21-23 節)

それでは、最後に、イスカリオテが下した「選択」というものを見て、今日のメッセージを終わっていきたいと思います。イスカリオテは、イエス様が語ってくださったメッセージやたくさんの奇蹟を目の当たりにしながら、彼は、そのイエス様を裏切るという選択をしてしまいました。彼が下した、その選択の行く先にあったのは、イエス様の十字架でありました。どうぞ、今日のみことばに戻っていただきまして、ルカ 22:21-23 をご覧ください。

21 しかし、見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓にあります。

22 人の子は、定められたとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はわざわいのです。」

23 そこで弟子たちは、そんなことをしようとしている者は、いったいこの中のだれなのかと、互いに議論をし始めた。

●すべてをご存知であったイエス・キリスト

実は、このルカの福音書には、最後の晩餐の時に、イエス様がパンを浸して、それをイスカリオテに与える…といったような、有名なシーンは省略されています。それが、この 21 節になるわけですが…、この部分におきましても、イエス様は、実に興味深い言葉を使っておられます。それは、例えば、①21 節、『わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓にあります。…』という言葉…、何と、イエス様は、この時点で、自分と共に食卓にある者(=弟子たち)の中に、裏切り者がいる！と話しておられるのです。また、②22 節、人の子(=イエス様)は、『定められたとおりに去って行きます…』ということで、イエス様の死が、「定められていた…」、つまり、神様の御計画であった！ということが間接的に教えられています。

このように、イエス様は、当然、すべてのことをご存知でありました。…にも関わらず、イエス様は、イスカリオテのことを、ほんの少しも悪くはおっしゃっておられません…。いえ、イスカリオテだけではありません！何と、イエス様は、あの十字架上で、自分のことを十字架へと追いやった者たちの赦されることを願って、『父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分ではわからないのです。』(ルカ 23:34)と祈ってくださったのです。Ⅱペテロ 3:9 に、『主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束の事を遅らせておられるわけではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』と教えられていますように、イエス様は、自分のことを裏切ったイスカリオテでさえ救われることを願って…、イスカリオテが悔い改めることができるよう願っておられたのです。しかし、現実には、イスカリオテが悔い改めて、救われることはありませんでした…。

イエス様は、マタイ 26:24 で、このイスカリオテのことを指して、『そういう人は生まれなかつたほうがよかつた…』ということをおっしゃっています。それはつまり、イスカリオテが永遠の裁きに下ってしまうということをおっしゃっています。彼は、黙示録 20 章のみことばが教えるように、自分が犯した過ちを後悔しつつ…、永遠に昼も夜も苦しみ続けるのです…。何度も言います！そういったことが無いよう、神は、イエス様のことを救い主として遣わしてくださったのです！

●あなたに委ねられた、究極の選択！

さて、問題は私たちであります。当然のことながら、天の神様は、ここにおられる私たちのことも救われることを願っておられます。祭司長たちに救いが必要であったのと同じように、救いは、皆さんにも必要です！しかし、残念ながら、私たち人間は、自分自身の力や努力などでは決して救われることができません。だから、神は、救い主を遣わしてくださったのです！

私たち人間が抱えている、厄介な問題は、なかなか、神様に頼ろうとしないことです…。私たち人間は、できるだけ、他人に頼ったり、他人の世話になろうとしないで、自分の力だけで解決しようとする！でも、それが問題なのです。だって、この罪の問題に対しては、誰一人、絶対に勝利できないからです。そうではないでしょうか？果たして、皆さんは、罪に対して、勝利できるものでしょうか？「私は、もう2度と、罪を犯さない！私は今後、絶対に悪いことを考えたりしない！」なんて誓ったとしても、それを実践できるでしょうか？⇒いいえ…、できません。私たち人間は、罪に勝利することなど、決してできないのです。でも、だからこそ、私たちには、救い主であるイエス・キリストが必要なのです！

<励ましの言葉>

今日のみことばの最後、23節をご覧ください。3年間に渡って寝食を共にした弟子たちでさえ、イスカリオテの裏切りには、気付くことができませんでした。つまり、それほどまでに、イスカリオテは、うまくやっていたのです！そのように、ひょっとしたら、私たちはある程度までは、人を欺くことはできます。しかし、天の神様を欺くことはできません！神様は、あなたの隠れた罪や問題をすべて御存知なのです！

どうぞ、願わくは、1日も早く、この神様のことを信じ…、自分の罪を悔い改めて、神様と共に歩む人生を始めていただきたいと思います。もう間もなく、世の終わりは、やって来ます。また、あなたの時間も、ひょっとしたら、もう今日か明日かも知れないのです…。どうぞ、手遅れになる前に、この救いを、ご自分のものとしていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。